目次

まえがき　003

序章　社会科学とは何か　011

1　社会の科学的な見方　013

社会の共通性／社会の不安定性

2　近代とは何か　015

近代化と社会科学／西欧の飛躍と学術の発達／時代区分としての近代と実質面での近代

第1章　近代科学　019

1　科学の成り立ち　021

宗教色の濃い世界／中世の西欧は暗黒時代か／古代文化の再生／科学は人々の営みの連なり

2　科学の性質　024

科学の宗教的な側面／近代のおごり／戦争は大きくなったが回数は減った／近代科学を縮小することの難しさ

第2章　近代法　029

1　近代法とは何か　031
近代法とはどこの法か／法の発達や導入を促す要素

2　法の性質　032
法と社会の安定／法の必要性と法則／事実判断と価値判断

3　法と道徳の関係　036
道徳と最低限の義務／道徳には正解がない／トリアージの考え方／法と道徳の境界

4　自然法と実定法　040
自然法（＝実定法以前の法）／実定法／不文法の分類

5　制定法　043
制定法の意義／制定法の運用／委任立法／法律の抽象性／罪刑法定主義／法の現実性

6　英米法　050
コモンロー／判例法を積み重ねる法体系／「法の支配」―人ではなく法が国家を治める／イギリス法とアメリカ法

7　大陸法　054
ローマ法からの発展／大陸法の設計／形式的法治主義／法の運用と定着／大陸合理論とイギリス経験論―法や権利は一気につくられるべきか／日本の法体系／実質的法治主義

8　西欧政治の流れ――近代憲法の確立過程　062
中世・封建社会―複数の権力が入り乱れた時代／中世末期―教皇と諸侯の権威が低下しつつあった時代／宗教改革

期―西欧社会の原点に価値を見出しつつあった時代／印刷技術の貢献／絶対王政／フランス革命／君主政と権力の正当性

9 憲法 071

憲法の位置づけ／立憲主義／近代法の性質／憲法の最高法規性／違憲審査と統治行為論

10 近代国家と近代法の原則 076

司法と法改正の限界／国家無答責の法理と国家賠償制度／法が機能する要件／国家と信教の自由／近代における自由の意義／私的自治の原則／自由と社会保障／刑罰―身体刑から自由刑へ／身体刑の合理性／合法的暴力とその独占／自力救済の禁止

11 近代の国際法 090

国境のあり方の変遷／国境の原点―諸権力が棲み分けて争いを抑える／主権国家―国家の地位と権能の明確化／国家の承認／無主地先占の法理／文明国中心の論理／国際法と国際社会／国際法の実態

第3章 近代経済 101

1 経済学の意義 103

経済学とは何か／経済学の役割

2 前近代の経済感覚 105

資本主義における貯蓄／近代に資本主義が生まれた要因／キリスト教と資本主義の精神

3　西欧経済の流れ　108
海外で稼ぐ時代／海外進出の原点／中華思想と大航海／封建制とその解体／賃金労働者と移民の誕生／経済・学術・文化が栄える要件／三角貿易と植民地経営／産業革命／経済成長の弊害／帝国主義／帝国主義を支えた鉄道と金融／帝国主義国家の増大／国際連盟の創設／アメリカの躍進／世界恐慌／ニューディール政策／ブロック経済／ナチス勢力の拡大／扇動される国民と二つの大戦／社会主義国ＶＳ資本主義国／スタグフレーション／西側・資本主義の勝利

4　経済発展の構造　132
経済発展と自由／前近代で経済学が発達しなかった理由／国家の分業体系／自由主義的な経済発展の流れ／経済発展の条件／近代経済学の発達／「法の支配」と経済／地域による経済発展の違い／開発独裁／経済発展の人為的な促し方／民主化と経済成長／グローバル化と経済競争

5　近代経済の所産　146
貨幣・金融と信用／「株式会社」の原点と事業の永続性／経済発展と差別の減少／自由と豊かさがもたらす問題／公的年金制度の意義／社会保障制度の原理／近世経済と近代経済の違い

6　大経済学者　アダム・スミス（１７２３〜１７９０）　155
国富とは何か／利己心と分業／「見えざる手」／重商主義批判／スミスの「自由主義」

7　大経済学者　カール・マルクス（１８１８〜１８８３）　162
商品の使用価値と交換価値／労働価値説とは―労働力が価値の源泉／「貨幣」の役割と「資本」の誕生／資本家と労働者の誕生／剰余価値とマルクス経済学における賃金／生産効率と価値増殖の追求／唯物史観とは／階級対立の複雑化

8 大経済学者　ジョン・メイナード・ケインズ（1883〜1946）173
ケインズを理解するための用語／古典派・新古典派経済学の限界／有効需要の原理／乗数効果
9 大経済学者　ミルトン・フリードマン（1912〜2006）178
フリードマンを理解するための用語―自然失業率／インフレと錯覚／マネタリストの経済政策／フリードマンの「自由主義」
10 市場経済と資本主義の性質 184
市場経済の性質／経済学の法則性／市場経済における公平性／資本主義の性質／資本主義の類型
11 社会主義の性質から見える資本主義の優位性 191
資本主義の成立／資本主義の根本的な克服／体制と労働意欲／計画経済と市場経済の違い／事後修正システムの限界と景気循環／自由な経済活動が抱える矛盾／社会主義国の腐敗と資本主義国の自浄作用／経済体制と社会の変化
12 資本主義の限界？ 204
資本主義とイノベーション／経済成長を鈍らせる懸念材料／経済成長の余地／第三次産業がもたらす可能性／企業救済の是非
13 経済学のこれから 208
経済学は科学か

第4章　近代政治　213
1　国家という枠組み　215
政治と国家／国家の成立意識
2　近代政治の流れ――集権的な国家　217
時代ごとの国家観／火器の出現と集権化／近代の平等観と国民軍の創設／義務教育制度の誕生／領土の統合と拡大／国家と民族意識／ナショナリズムと国民国家の誕生／変わりつつある近代の集権的体系
3　政府と秩序　226
混合経済―政府の役割／社会契約説
4　近代以降の統治機構　231
国家の正統性／消極国家から積極国家へ／行政国家／市民社会とは／租税法律主義／「代表なくして課税なし」―アメリカ独立革命の争点／官僚制／官僚制と法・政治の関係／法と経済と政治の関係／民主主義体制とその欠点
5　秩序を維持するための政治　243
力に基づく政治／シビリアン・コントロール／情報公開と秩序／壮大なジレンマ
6　政治を考察するために　249
政治運営の実際／左翼の性質／右翼の性質／左翼と右翼のねじれ／政治分析と類型化
あとがき　256
参考文献　258